



わどまり

議会だより



発行 平成24年11月26日 鹿児島県和泊町議会
 編集 議会報編集委員会 〒891-9192 鹿児島県大島郡和泊町和泊10番地 TEL 0997-92-2569 FAX 0997-92-3176
 ホームページ <http://www.town.wadomari.lg.jp/>



和泊町議会 初議会 平成24年9月14日

第117号

主な内容

可決された議案事項	2
決算書	4
監査報告	5
一般質問	6
こども議会	12

町の人口

平成24年11月1日現在

男性	3,479人
女性	3,565人
合計	7,044人
世帯数	3,242戸

副議長に山下幸秀氏

可決された

議案事項

平成24年「第1回臨時議会」は、9月14日の1日間開催され、上程された議案すべて可決しました。

条例

●和泊町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について

和泊町議会議員定数条例の定数が減になった事に伴い、各常任委員会の定数を7人から6人に改めるもの。

人事案件

●議会議長の選挙について
和 正巳（満67歳）

指名推薦による採決
●議会議長の選挙について
山下 幸秀（満61歳）

指名推薦による採決
●常任委員の選任について
総務文教常任委員会

- 委員長 平 勝美
- 副委員長 芋高 生三

委員

- 橋口 和夫
- 児玉 実隆
- 伊集院徳二
- 和 正巳

経済建設常任委員会

- 委員長 永野 利則
- 副委員長 沖 充
- 委員 中田 隆洋
- 桂 弘一
- 泉 秀樹
- 山下 幸秀

議会運営委員の選任について

- 委員長 山下 幸秀
- 副委員長 永野 利則
- 委員 橋口 和夫
- 芋高 生三
- 桂 弘一
- 平 勝美

沖永良部バス企業団議会議長の選挙について

- 中田隆洋、橋口和夫、桂 弘一、芋高生三
- 指名推薦による採決

沖永良部衛生管理組合議会議長の選挙について

- 沖 充、泉 秀樹、永野利則、山下幸秀
- 指名推薦による採決

●沖永良部・与論地区広域事務組合議会議長の選挙について
児玉実隆、平 勝美、伊集院徳二

指名推薦による採決

●和泊町選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙について

委員…谷山俊秀、佐藤 秀子、山下元達、瀬島勝男
補充員…花田博教、村田健二、勝男百合子、野村美枝
指名推薦による採決

平成24年「第3回定例会」は、9月24日から10月5日までの12日間にわたって開催され、上程された陳情の一部を除き可決しました。

条例

●和泊町災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

災害弔慰金の支給等に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴い所要の改正を行うもの。

補正予算

●平成24年度和泊町一般会計補正予算（第2号）（専決）

第29回鹿児島県消防操法大会派遣経費等による専決処分、歳入歳出それぞれ170千円追加し、予算の総額は5,819,440千円。

●平成24年度和泊町一般会計補正予算（第3号）（専決）

台風15号により繰延投票執行となった和泊町議会議員選挙費の専決処分、歳入歳出それぞれ1,000千円追加し、予算の総額は5,820,440千円。

●平成24年度和泊町一般会計補正予算（第4号）

歳入で、財政調整基金繰入金、前年度剰余金繰越金の増額、普通交付税の減額。歳出で、ごみ処理施設交付税公債費知名町負担金、台風15号、16号に伴う有線テレビ災害復旧費の増額等の予算措置で歳入歳出それぞれ192,871千円

新議長に和 正巳氏

円追加し、予算の総額は6,013,311千円。

●平成24年度和泊町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)

歳入で、保険税、療養給付費交付金、繰入金、繰越金の増額。歳出で、保険給付費、介護納付金、共同事業拠出金の増額で歳入歳出それぞれ20,460千円追加し、予算の総額は1,093,618千円。

●平成24年度和泊町介護保険特別会計補正予算(第1号)

歳入で、保険料、支払基金交付金、繰越金の増額。歳出で、保険給付費、総務費、諸支出金の増額で歳入歳出それぞれ11,085千円追加し、予算の総額は846,768千円。

●平成24年度和泊町後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)

歳入で、保険料の減額、繰越金の増額。歳出で、総務費の増額で歳入歳出それ

ぞれ158千円減額し、予算の総額は78,220千円。

●平成24年度和泊町水道事業会計補正予算(第1号)

地域振興推進事業(乾燥機設備)の導入に伴い資本的収入10,105千円追加、資本的支出20,210千円の追加。

契約案件

●工事請負変更契約の締結について(専決)

町営住宅喜美留団地新築工事2号棟(建築本体) 1工区 (株)池下建設

●工事請負変更契約の締結について(専決)

町営住宅喜美留団地新築工事2号棟(建築本体) 2工区 (株)町田建設

人事案件

●和泊町教育委員会委員の任命について

長田 隆一氏(満45歳)

無記名投票による採決

投票総数票 11票

賛成票 10票

反対票 1票

●和泊町監査委員の選任について

泉 秀樹氏(満55歳)

指名推薦による採決

菅村 寛仁氏(満63歳)

無記名投票による採決

投票総数票 11票

賛成票 11票

反対票 0票

●和泊町名誉町民の選定について

徳田 虎雄氏(満74歳)

●和泊町固定資産評価審査委員会委員の選任について

福山 肇氏(満64歳)

無記名投票による採決

投票総数票 11票

賛成票 10票

反対票 1票

●和泊町固定資産評価審査委員会委員の選任について

松山 廣志氏(満61歳)

無記名投票による採決

投票総数票 11票

賛成票 10票

反対票 1票

●和泊町名誉町民の選定について

本部 玲子氏(満56歳)

無記名投票による採決

投票総数票 11票

賛成票 11票

反対票 0票

その他

●陳情第10号商工会に対する平成25年度補助金等に関する要望書の取り下げの件について
要望書の内容に不備があったため。

採択された陳情

●地球温暖化対策に関する「地方財源を確保・充実する仕組み」の構築を求める意見書について

●陳情書について

意見書・決議(議員提出含む)

●地球温暖化対策に関する「地方財源を確保・充実する仕組み」の構築を求める意見書

平成 23 年度 全ての会計決算を認定

平成 23 年度の一般会計及び特別会計・水道事業会計は決算審査特別委員会に付託審査され、最終本会議で採決の結果全ての決算が認定されました。

一 般 会 計 歳入総額 6,891,261 千円
歳出総額 6,747,770 千円

区 分	平成 23 年度		区 分	平成 23 年度	
	決算額	対前年度比		決算額	対前年度比
町税	575,232	10,256	議会費	111,182	26,106
地方譲与税	87,607	-1,813	総務費	1,231,012	599,075
利子割交付金	1,145	-730	民生費	1,013,055	-15,285
配当割交付金	729	480	衛生費	543,513	20,651
株式等譲渡所得割交付金	115	-154	農林水産業費	808,411	266,718
地方消費税交付金	60,512	-687	商工費	97,778	19,538
自動車取得税交付金	10,746	-2,255	土木費	833,630	130,161
地方特例交付金	17,076	-2,108	消防費	166,631	37,803
地方交付税	3,126,822	-141,478	教育費	395,094	-223,009
交通安全対策特別交付金	1,824	38	災害復旧費	23,192	11,699
分担金及び負担金	45,492	2,099	公債費	1,118,469	39,897
使用料及び手数料	110,434	3,579	諸支出金	405,803	-285,368
国庫支出金	554,247	-17,741	合 計	6,747,770	627,986
県支出金	436,939	40,918			
財産収入	30,381	912			
寄附金	4,300	-9,199			
繰入金	241,163	-46,310			
繰越金	249,476	26,166			
諸収入	70,817	-22,152			
町債	1,266,204	682,180			
合 計	6,891,261	522,001			

特 別 会 計 歳入総額 2,443,126 千円
歳出総額 2,413,500 千円

単位：千円

会 計 別	歳 入		歳 出	
	決算額	対前年度比	決算額	対前年度比
国民健康保険	1,027,236	28,005	1,022,999	24,968
老人保健	0	-1,173	0	-1,173
介護保険	808,615	21,583	807,428	25,061
奨学資金	26,262	3,637	18,781	16,320
下水道事業	219,338	-11,837	219,318	-11,653
農業集落排水	268,980	-11,552	268,969	-11,548
伊延港ふ頭用地	21,682	-4,300	6,380	-1
後期高齢者医療	71,013	1,659	69,625	1,596
特別会計の計	2,443,126	26,022	2,413,500	43,570

水道事業会計

単位：千円

区 分	収入	支出	純利益
収益的収入及び支出	198,128	190,056	8,072
資本的収入及び支出	782	70,561	-69,779

資本的収入が資本的支出に不足する額 69,779 千円は、当年度分消費税資本的収支調整額 2,314 千円、当年度分損益勘定留保資金 64,587 千円及び建設改良積立金 2,876 千円で補てんした。

監査報告

(和泊町代表監査委員 上原 清)

●各会計決算審査意見書要約

会計処理の合規性等については電算システムの進化と共に会計課の内部統制も進んでいるのでその疑いはない。統計数値については、総務課、生活環境課提供の資料に基づき、書記の方で集計処理されたもので、本町の姿を数字によって全体像を写しだすものである。財政状況は昨年より悪化している。ただ3カ年平均の推移で見るとほぼ一定の状態である。本年は投資的経費の割合が増えているのでその分町民に廻っていれば有難い。ただ本年は実質単年度収支が赤字になっている。実質公債費比率も規制制限ぎりぎりのところにきている。水道会計は、飲料の外部購入が目立ち硬度化低減によって対処しようと

したが配水量の増へとは至っていない。

後2点、お詫びと激励を付け加えます。1点目は、事務事業評価について、昨年まで成果説明書は毎年同じ文章が繰り返えされるとの議員からの指摘があった。事務事業評価は今夏から始まったばかりで、手探りの状態だが確実な前進を図って下さい。2点目は、滞納未収について、県からも厳しい指摘を受けている。監査委員として怠慢な面があったと今反省している。何故、例月毎に進捗をチェックしなかったか、債権管理の自身について精査すべきであった。後2回の例月検査があるのでその時に少しでも多くの精査を行う。

●水道会計決算審査意見書要約

法令に定められた会計原則に準拠して作成され、計数はいずれも正確であり財政状態及び経営状況を適正

に表示している。収益力については料金値上げにより好転した時期もあったが、配水量そのものが減少傾向にある為、厳しさが増しつつある。加えて石灰処理の課題も有り、硬度低減化の効果はなかなか見えてこない。

●財政健全化審査意見書

普通会計における健全化比率は特に問題なし。実質公債費比率は単年度

16.7%で、3カ年平均でも15.2%となる。標準財政規模が増大した事により、将来負担比率は126.7%になる。これまでも、普通会計の統計整備は進められてきたが行政サービスの拡大に伴い夕張事件の様な事が起こってきた。連結範囲を明確にして将来への負担額をはっきりさせる必要がある。本町は、赤字比率は免れているが、実質公債費比率、将来負担

比率は年々悪化してきている。今後の慎重な財政運営が望まれる。

●経営健全化審査意見書

審査に付された、資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類は、いずれも適正に作成されているものと認められる。資金不足率は発生していないが、水道事業剰余金は減ってきている。

平成23年度に行われた事業実施地区の説明を受ける議員



一般質問

町民に代わって行政を問う

平成24年(9月)第3回議会定例会

平成24年度行政懇談会及び教育行政に関する



橋口和夫議員

平成24年度行政懇談会について

問 全集落で実施した懇談会の意義をどのように捉えているか。

答 町民の声を聞く方法としては、役場庁舎内やホームページにご意見募集コーナーを設置し、広く町民の声を聞くことができるような環境を作っている。直接、町民と顔を合わせ、懇談できる場を設定することにより、生の声を聞き、そこで収集した意見を行政に反映することができる。

問 懇談会の質疑応答集を今後どのように活用しているのか。

答 町民からの要望については、すぐに対応可能な要望、来年度以降対応可能な要望、中長期的対応が必要な事項等それぞれに検討を加えたうえで取り組んでいく。

問 谷山字から提案された懇談会の実施回数については、今後どのように取り組んで行くか。

答 これまでは何年かおきに各集落や各種団体等と懇談会を実施してきたが、町民の要望があれば、協議のうえで検討していく。

問 西原字から質疑のあった町営住宅についてはどのような対応をしているのか。

答 町営住宅を長期に不使用的の状態にすることは、住宅の有効活用や、字の活性化等の面から問題があり、入居者本人には、「明渡し届

けの提出について」の通知文を送付している。公営住宅の有効活用が出来るよう早期解決を図っていく。

教育行政について

問 給食センターの再利用及び、今年度の予算執行状況はどうなっているか。

答 漁協から加工施設として利用する提案がでていますが、今ある施設設備を活かすことができる最も適した利用をしていきたい。予算

の執行状況は、設計業務委託・地質調査委託・造成工事について事業計画に基づいた作業を進めていく。

質問2 地域活性化との関連から児童数が減少している大城、内城校区の公営住宅建設状況はどうなっているか。

答 現在、大城校区に17戸・内城校区に25戸の公営住宅が整備されている。

質問3 複式学級の特性について校区民にどのように説明しているか。

答 複式学級になつてからは、両校区の字の行政説明会において、懸念される複式学級の学力低下への対応として、学習支援員を配置することや、教職員の複式指導の指導力向上を図ること等、複式学級開設への町教委としての対応を説明している。



3・4、5・6年生複式の内城小(上)
3・4年生複式の大城小(下)

問 奨学金制度の活用状況及び返済状況はどのようになっているか。

答 現在まで約300名の学生が利用している。返済状況については、滞納者が

道路建設・指定避難場所・台風災害・野球場建設・教育行政について



児玉実隆議員

道路の建設について

問 燈台の横側から憩いの家までの間、避難道路を建設する計画はないか。

答 長浜地区の出入り口が2箇所、標高が4.0m〜4.5mで津波被害が想定される。誘導灯から老人憩いの家までの避難道路は以前から必要だと考えていた。県の保安林で、安易に伐採できない

8名となっている。滞納者については、督促状の発送や、連帯保証人である保護者と返済についての相談を行い1日でも早く完納できるように努めている。

いが、現状に合わせて、早急に実施したい。



防災担当課と字役員等で整備した長浜地区から憩いの家までの避難通路

問 和泊中学校から福嶺建材までの間は、通学路として歩道が整備されているが、大坪運送店前まで延長する計画はないか。

答 南洲通線は人家が密集しており、家屋補償費等が

事業費の7〜8割を占め、事業費が莫大になることから、財源等を考慮しながら社会資本整備総合交付金事業等で、現在整備中の路線の進捗状況をみながら今後の計画の中で位置づけをしていく。

指定避難場所の整備について

問 町で整備されている避難場所には、災害時に備え敷マットや懐中電灯等の防災備品を整備しておく必要があると思うがどうか。

答 実施中の奄美群島防災関連施設整備事業により町内9集落の字公民館の耐震診断を行い、耐震補強及びバリアフリー化の改修事業や非常用発電機の設置を行う。避難所での生活に必要な食糧、寝具類等の防災備品の整備は、大規模災害の場合には町で対応する。それ以外の台風等の短期的災害では、個人あるいは各字等で対処することが基本とな

台風災害について

問 停電後、電力の復旧が遅れているが、その理由について電力会社に行政側から問合せ等をしているか。

答 台風の襲来が予測される場合は、あらかじめ復旧の応援部隊を待機させ、暴風が弱まり次第、早急に復旧作業に入っている。町においては、電力会社からの電話やFAX情報等により、停電状況と復旧状況について町民に情報提供をしている。停電状況、復旧状況復旧見込みについての情報提供と復旧について早急な対応をお願いしている。

野球場の建設について

問 町営野球場建設の計画はないか。

答 総合運動公園整備計画の中で計画されており、整備計画については、スポー

ツ推進審議会で協議を進め、他の教育委員会所管事業との整合性も図りながら進めていく。

教育行政について

問 本町でもいじめの問題が発生しているか。あるとすれば何件あったのか。

答 本年度に入ってから小学校で4件、中学校で10件、合計14件のいじめを学校が認知したと報告を受けている。報告によると、14件のいじめは悪口や仲間外れ等が主で、14件のうち12件はすでに解消済みと報告を受けている。現在は2件を継続したいじめととらえており大きな問題に発展しないように、また、解消済みのいじめも再発しないように、学校・教育委員会と当該児童生徒の保護者、PTAや関係機関とも連携しながら、いじめの未然防止や解消に向けた取組を充実させていく。

問 校内暴力等が発生した場合、警察の介入をどのように考えているか。

答 文部科学省や県教育委員会会の指針に基づき、学校

だけで抱え込むことなく、警察に通報し、その協力を得て対応するよう学校へは指導をしている。

本町予算の財源確保について



沖 充議員

る地方交付税については、財政力の弱い市町村を除き、9月初旬の支払い予定日を延期したうえで、一部はさらなる先送りを検討しているようである。

問 歳入予算額の約6割強を占める地方交付税・国庫支出金・県支出金の配分や交付に遅れが生じ、事業執行等に影響がでてくるのではないかと危惧されるが、町長の見解と今後の対策をどのように考えているか。

本町への9月交付の普通交付税も減額交付が懸念されていたが、財政力の弱い市町村ということで、9月10日に交付予定額が全額交付されたところである。また、予算執行抑制予定の医療関係者養成経費等の裁量的国庫補助金についても、本町への影響は大きくないものと思われる。しかし、国の24年度予算90兆円の財源のうち税収と税外収入分で確保できるのは約46兆円

であり、累計支出額は10月末で約45兆円に達する見込みで、国債を発行できないまま、これまでのペースで執行を続ければ10月末に税収・税外収入分をほぼ使い切ってしまうと想定されており、11月の普通交付税の交付に影響が出ると本町において一時借入や基金からの運用を余儀なくされること懸念される。



問 どのような被害や影響が出たか。

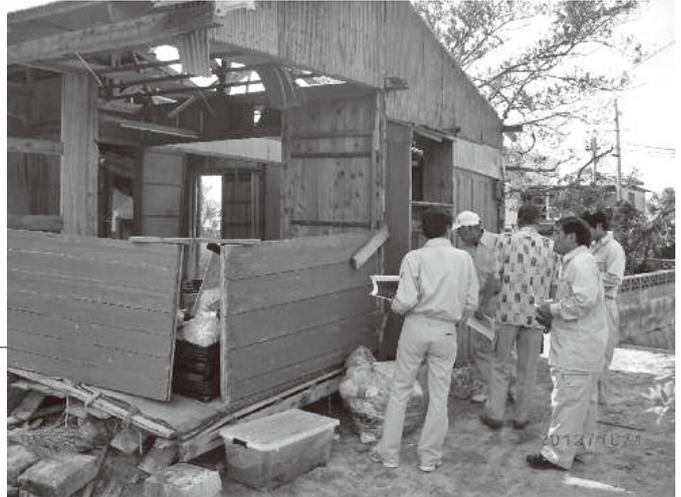


泉 秀樹議員

台風15号の影響について

被害額6,095万8千円、花きはソリダゴ・キク等3.7ha、被害額1,142万5千円、農業被害額は8,194万5千円となった。公共土木災害については、町道の路肩決壊が3箇所発生し、農地災害として、ほ場の表土流失3件、法面崩壊8件、他にも道路冠水やため池のシート破損が発生した。商店街でも停電による食品保存に対する影響や、定期船の欠航に伴う商品の品不足により、住民生活も多大な不便を強いられた。さらに、町議会議員選挙の投票日繰り延べをはじめ、町の行事や各集落で計画されていた行事にも大きな影響を及ぼした。

答 台風15号の襲来で、住宅被害として建物の半壊2戸、一部損壊6戸のほか非住居の半壊2戸、一部損壊8戸をはじめ、長時間の雨量による農地の表土流失、農業施設や農作物にも被害が出た。停電による情報通信関係へ大きな影響が生じたほか、ケーブルテレビなどにおいては324戸に断線等の被害がでた。農業用施設は平張施設のネット裂傷や畜舎のトタンののがれ等91件、被害額にして956万2千円、農作物被害はサトウキビの裂傷・折損・倒伏等601ha、



台風15号の被害調査を行う経済建設常任委員会

問 地球温暖化に伴い台風の頻発化、強力化、大型化が進むといわれているが、今後の課題と対策をどのように講じていくか。

答 昨年から本年にかけて、これまででない集中豪雨による床上・床下浸水、沖永良部台風と匹敵する規模の大型台風の襲来によって、本町においても被害が発生し、生活環境を脅かす事案が発生した。

このような災害から町民の

生命財産を守るため、災害時における町民への情報伝達手段の強化策として、昨年度から防災行政無線の整備をしている。また、減災対策として日頃から防災訓練を通して町民の防災意識の高揚を図るとともに、防災情報の収集等日頃からできる防災知識の普及啓発に努めている。

今後はさらに地域との連携を密にして、近隣所の災害弱者である高齢者や障害者などの災害時要援護者の把握と支援体制の充実強化など災害発生に備えた活動を行うことと、「自分の身は自分で守る」意識と「自分の地域は地域住民で守る」意

識の高揚を図ることで、災害に強いまちづくりを努めていく。

農作物については、被害を最小限に抑える方法の一つとして複合経営を再度見直すとともに、農業共済や価格安定制度を活用するなど台風襲来を前提とした足腰の強い農業の推進に尽力していただきたい。

行政としてそのためのサポートには全力を尽くしていく。農地については、災害を未然に防ぐために、耕作者本人が適切な維持管理をするという強い意識を持つて頂くことが大事だと思う。現在、各集落に水里サークル活動組織を設立し、農地・農業用施設の点検活動を通して、農地・農業用施設の保全に努めているところである。今後も各種協議会やサンサンテレビ・防災無線等を通じ啓発活動を推進していく。

流通コストの軽減・奄美群島振興開発事業について



芋高生三議員

流通コストの軽減について

問 所得向上のため、輸送費の軽減を図る必要があると思うがどのような対策を講じているか。

答 経済の停滞による農産物価格の低迷や円高に伴う輸入農産物の増加のほか、農業資材の高止まりなど農業経営は大変厳しい状況にある。本町のような大消費地から遠く離れた外海離島において、特に、園芸作物については、生産物の鮮度保持と輸送経費の低減は大きな課題である。郡町村会や議長会を通じて国や県に輸送経費への軽減対策を陳情しているところであり、

今後とも郡内の市町村と連携しながら引き続き強く要望していく。

問 物価における輸送費用の占める割合はどのようになっているか。

答 物価における輸送費用の占める割合は種類により異なることから、一概に何パーセントとは言えないが、平成22年度の小売物価調査によると、鹿児島市を100とした場合、奄美地区においては、食料が103.8%、光熱・水道102.7%、家具・家事用品101.4%、被服及び履物104.6%、交通・通信104.5%という調査結果である。

問 民主政権になってからガソリンがリッター当たり10円補助されているが、実際、どのような効果が上がった

ているのか。

答 事業実施前の鹿児島市ガソリン平均価格が157・4円に対し、沖永良部島の平均価格は183・5円で26・1円高かったのが、事業実施後の価格は鹿児島市の155・7円に対して、沖永良部島は174・7円。その差額は19円となり、価格差は是正されており、事業効果があったものと考えている。

問 あらゆる補助事業を導入しているが、導入後、どのような成果が上がっているのか。

答 生産拡大や新たな作物を導入し産地を形成するためには、施設・機械の導入の他、集出荷施設の整備などが不可欠で、これらを整備するため多額の費用が必要となる。国や県において、意欲のある産地を育成するための方策として、様々な補助事業による支援策が講じられている。本町農業が

現在のように拡大・発展できたことは、農業者の高い栽培技術と勤勉性はもちろんのことですが、農業者と関係機関が連携し、国や県の補助事業を計画的かつ有効に活用して、迅速に生産・出荷体制の整備を行い、消費者から信頼される産地確立が図られたことが大きな要因であり、補助事業導入の大きな成果であると考えている。

奄美群島振興開発事業について

問 奄振約200億の予算を郡民のため、運賃の助成に充てられないのか。その方策はないか。

答 外海離島にとって大消費地までの距離は大きなハンディーとなっていることから、奄美群島振興開発事業での運賃助成について、これまでも事ある毎に奄美の市町村会や議会、県議会などの機関を通して強く要望してきたが、ソフト事業

であることから未だに目的達成には至っていない。今後、「航空・航路運賃の軽減対策」については、引き続き群島12市町村が一致団結し、次期奄振事業に要望するとともに、町としても、奄美群島成長戦略ビジョン・実施計画に沖永良部島分科会の提案として要望していく。

問 離島物価高是正のため、過去、どのような方策、対策を講じてきたか。

答 機会ある毎に奄美の市町村会や議会、県議会などの機関を通して強く要望してきた。その結果、離島住民を対象にした航空運賃の離島割引制度や赤字を抱える離島航空・空路の運営費に対するの支援、昨年は離島ガソリン流通コスト支援事業により価格支援が実施された。しかしながら、まだ十分とは言えず、今後も引き続き郡内12市町村が一致団結し、離島物価高是正対策に取り組む。

農業振興及び、福祉対策の取組



伊集院徳二議員

集中豪雨による被災箇所とインフラ整備（有線テレビ）の対応策について

問 西原字、伊原池周辺圃場の湛水処理についてどのような対応策が具体的になされているか。又、新久保豊盛氏圃場の排水対策はどのようになっているか。

答 西原字伊原池周辺圃場の湛水対策については、字から事業要望があれば、字役員と協議し、適正事業を検討していく。新久保豊盛氏の圃場についても、現在、業者の協力を頂き流入口のゴミを撤去し、県の建設課も応急措置として県道脇に土嚢を設置してある。水路

敷きは、字区長と協議して頂きたいと思っている。事業要望があれば、字役員と協議し、適正事業を検討していく。

問 和泊町地域情報通信基盤整備の台風被害の補修に関してどのような契約がなされているか。

答 保守契約には、定期試験、自然災害後の巡回や簡易な木竹伐採等を定額・通年で行う「通常保守」と、工事の都度出来高払いする「特別保守」に区分されている。「特別保守」の契約内容としては、ドロップケーブルの新設・撤去をはじめ、道路改良工事など電柱移転に伴うドロップケーブルの移設工事、また台風等による大規模災害に伴う復旧工事等となっている。

障がい福祉について

問 大島養護学校高等部訪問教室の開校に向けてどのような検討がなされているか。

答 平成25年4月からの訪問教育実施に向けて、県の教育委員会が保護者等への説明会などを行い、入学を希望する生徒の把握に努めている。生徒や保護者等にとっては、自宅から通学でき、同級生や地域の皆さんに支えられながら学習できることは、精神的・経済的な負担の軽減が図られるのではないかと期待している。



台風後のケーブル復旧工事の様子

訪問教育は、在籍する生徒数により、授業時間の設定が異なるが、多くの症状を抱える生徒の指導や教育等がどこまで実施できるのかという不安もある。

また、授業が終了した午後の時間は、自立支援のサービスが必要になってくることも考えており、きめ細かなサービスが提供できるよう、関係機関や保護者等と連携を図るとともに、療育指導等が行える人材の確保に努めていく。

平成25年度に向けた事業計画と奮闘について

問 平成25年度に向けた事業計画はどのようになっていくか。

答 現在のところ主な事業として、継続事業で農業基盤整備事業、道路改良舗装事業、公営住宅整備事業など、新規事業として、各字公民館の耐震診断に伴う改修工事、火葬場の整備、給食センター建設事業等が計画されている。

問 次期奄振に向けた「在り方検討委員会」の提言の中で本町の計画・立案をどのように考えているか。

答 本町の計画については、既に両町の民間7名、行政8名、合計15名により「沖永良部島分科会」を組織し、8月30日に第1回分科会が開催された。今後、「農業、観光・交流、情報産業に加え、文化、定住促進」の5分野を中心に、沖永良部島

の事業計画を策定することになっていくが、地元の意見をより多く反映させていくためにも、全町民を対象にしたアンケート調査や高校生からの意見等を伺い、計画・立案に取り入れていく。

相次ぐ台風にて

被災された方々に、

お見舞い申し上げます。

和泊町議会議長

和 正巳

議会議員

- 山下幸秀、伊集院徳二、永野利則、
- 泉 秀樹、平 勝美、沖 充、
- 見玉実隆、芋高 生三、桂 弘一、
- 橋口和夫、中田 隆洋

第16回 子ども議会 (平成24年8月7日)

第16回 子ども議会に登壇した子ども議員9名と中田子ども議会議長



玉野 将太議員
和泊中学校3年生
質問：商店街の振興について



川添 梨央議員
和泊中学校2年生
質問：和中グラウンドのトイレ設置について



中田 元議員
和泊中学校3年生
こども議会議長



重村 勇己議員
城ヶ丘中学校3年生
質問：世之主の墓の環境整備について



亘 尚生議員
城ヶ丘中学校3年生
質問：沖永良部を世界遺産に



高石 晟議員
和泊中学校3年生
質問：通学路の街灯の設置について



重 雛乃子議員
和泊中学校3年生
質問：島内産じゃが芋のアピールについて



嶺元 瞳美議員
城ヶ丘中学校3年生
質問：安心して子どもの産める町について



鈴木 星空議員
城ヶ丘中学校3年生
質問：道路ミラーの設置について



福 洪志郎議員
城ヶ丘中学校3年生
質問：地域活性化につながるマスコットキャラクターについて

こども議会議長挨拶 和泊中学校3年 中田 元

私は、生れてから14年間をこの和泊町で過ごしています。私の暮らしているこの和泊町を少しでも良くするため、また、日頃の学習や考えていることを活かせるのではないかと思います、今回こども議会の議長に立候補しました。リハーサルで議長席に座り事の重大さを知りました。周りが良く見えるこの席は、裏を返せば、皆に注目されているといっても過言ではないと思います。それだけ重要なんだと感じました。そして、リハーサルで指導者の方に、「議長が会議を進めないといけないんだよ。」と言われ、その言葉から議長の責任を感じることができました。今日を迎え、本番が始まるまですごく緊張していました。本番が始まってからは平常心を心がけて、会議を進めました。そして事が進むにつれ、リラックスできるようになり、緊張の面持ちを浮かべる質問者の皆さん、質問に対し解りやすい答弁を下された役場の方々、今日まで私達をサポートして下さいました先生方や指導者の方々などの表情を伺うこともできました。今回の会議では活発な意見交換を行うことができ、和泊町の発展に繋がっていきそうな気がするものばかりでした。質問の多くは町を良くすると言う試みばかりで大人には無い視点のものもあったのではないのでしょうか。今会議を通じて、和泊町の子供達が少しでも町の発展のため尽くしたり、町づくりについて考えてくれたら幸いです。今回は貴重な体験をさせて頂き有難うございました。

和泊町議会構成

- 議長 和 正巳
- 副議長 山下幸秀
- 議会運営委員会
 - 委員長 山下幸秀
 - 副委員長 永野利則
 - 委員 平 勝美
 - 委員 芋高生三
 - 委員 桂 弘一
 - 委員 橋口和夫
- 常任委員 (任期2年)
 - 総務文教常任委員会
 - 委員長 平 勝美
 - 副委員長 芋高生三
 - 委員 和 正巳
 - 委員 伊集院徳二
 - 委員 児玉実隆
 - 委員 橋口和夫
 - 経済建設常任委員会
 - 委員長 永野利則
 - 副委員長 沖 充
 - 委員 山下幸秀
 - 委員 泉 秀樹
 - 委員 桂 弘一
 - 委員 中田隆洋
- 監査委員 (任期4年) 泉 秀樹

編集後記



平成24年は、和泊町議会議員改選の年にあたり、町民の皆様には新しく議会議員を選出して頂き深くお礼申し上げます。

本町では、8月から台風で甚大な被害を受けましたが、自助・共助・公助で、共生・共働の基、必ず復帰発展するものと信じています。

「災害」に負けるな!!

和泊町、和泊町民

(文責 児玉実隆)

- 議長 和 正巳
- 議会報編集委員 児玉 実隆
- 委員長 橋口 和夫
- 副委員長 沖 充
- 委員 中田 隆洋